

第三十一卷 第一號 二十一年一月十八日發行

愛知縣有物品

明治四十一年一月十八日發行

志士教育誌

第貳百四拾八號

208 - 139

第二百四十八號目次

●新年の辭……………	一頁
●訪問録……………	四頁
▲本縣事務官 鈴木隆氏	
▲本縣事務官 枝德二氏	
▲本縣事務官 村上金二郎氏	
▲本縣視學官 林喜江太郎氏	
▲本縣視學官 河野省一郎氏	
▲本縣視學官 石川林之助氏	
▲名古屋小學校長 大島武比古氏	
●教授訓練……………	一九頁
▲教授細目編制につきて 第一師範附屬主事 堀田鑑次郎	
▲當校二部教授の梗概(承前) 第二師範附屬訓導 小林佐源治	
●文苑……………	三〇頁
▲漢詩 ▲和歌	
●設録……………	三二頁
▲染色講習會	田部井竹香
▲教授訓練百話	瀧 廼 家
●郷土史料……………	四七頁
▲常滑窯業沿革史	竹 香
●雜報……………要件	五〇頁



謹賀新年

明治四十一年一月一日

愛知教育會長

枝 德 二

同 幹事 伊野宮茂長

石川林之助

林 喜江太郎

立松 爲 一

鵜飼金三郎

(いろは順)

同 書記 中村雅吉

同雜誌主任 田部井鋤太郎

(明治二十六年 第三種郵便物認可) 毎月一回二十日發行

明治四十一年一月二十日發行

志士教育雜誌

第貳百四拾九號

第二百四十九號目次

●口繪 嗚呼藤森彦男君

藤森彦男君を弔ふ辭
藤森彦男君の畧歴

●關西府縣聯合共進會と本縣の教育

枝 德 二

●論 叢

▲女子の技藝教育

楢山 正 式

●訪問録

▲特別講習科に就て本縣第一師範學校教諭伊野宮茂長氏の談

一〇頁

▲本縣教育諸法令發布に就き本縣屬河野省一郎氏の談

●教授訓練

▲教育勸語教授調査表

一四頁

▲義務教育延長後理科教授上に起る一問題

中根政次郎

▲圖誌研究

麻 園 生

▲手工料の理論及實際 (續き)

木村 重 正

▲尋常小學校理科書教師用目錄

●漫 録

三九頁

▲花押の話

藤 原 舜

●文 苑

四二頁

▲鶴夔會

●教育日誌

四三頁

●郷土史料

四四頁

○▲犬山燒沿革

○▲夜寒燒沿革

○▲七寶燒沿革

●雜 報

四八頁

▲碧海郡新門町善行兒童表彰に關する取調 ▲八名郡通信 ▲海西郡通信 ▲東加茂郡通信 ▲知立通信 ▲藤森彦男

君表彰式 ▲藤森彦男君の遠逝 ▲田部井勝藏君の轉任

▲其他數件

(明治二十六年第三種郵便物認可) 每月一回二十日發行

明治四十一年三月二十日發行

志
教
育
新
法

第貳百五拾號

第二百五十號目次

●師 傅……………細井平洲

●農家經濟講習會に就き……………鈴木隆

●天籟地響

●教授訓練

▲小學校の手工科

▲教授に關する意見

▲教授訓練百話

▲國語讀方教授法

足助 山本由次郎
知多 杉浦桐平
寶飯 瀧 廻 屋
知多 尾村丈太郎

●漫 錄

▲義務教育延長後の吾人小學教師

二師訓導

▲疑 問 錄

▲世界各地名義考(一)

▲夜間の談話會

▲僕のすきな先生

名古屋七高

丹羽元三郎
碧海 稻垣 螢 雪
海四 石 黒 生
尾西 宮 田 生
碧海 太田 江 舟
鳥 壺

●郷土史料

▲不二見燒沿革

▲有松校沿革

竹 香
同

●教育日誌

●寄贈雜誌

●雜報數件

▲教育の事業、漸く進歩發達するに従ひ、其の研究は、益々分業となり、愈々専門となるは、勢の然らしむる所なり。▲然れども、其の趨勢が、いつも消極に傾き、悲觀に向はんとするは、吾人の常に憂慮する所なり。▲例へば、今日教育社會に於て、最も多く講究せられつゝあるは、低能兒童の教育と、盲啞兒童の教授法となり。▲又其の施設の上に就ても、或は貧民學校の設立と、道路教育と、林間教授と、凡て消極的方面のみなるが多し。▲余は思ふ、是れ等の事業、素より必要にはあらざるべきも、寧ろ天才兒童の教育と、人傑の養成と、又は模範學校の設立と、今少しく積極的方面の教育が、更に急なるにあらざるなき。▲由來我が縣は、低能兒童や、盲啞者の特産地にあらずして、天才者、若くは人傑の淵藪たりしなり。▲されば、其の血は、今に遺傳して絶滅せず、其の事跡は、猶歴々として存在す。▲又富の度に於ても、決して他縣に勝ることも、劣る所にあらず。▲寄語すに、本縣教育者何そ夫れ天才を誘掖し、人傑を養成するの教育法を講究し、及び模範として、理想として耻つる所なき學校を、設立するに努めざるや。

竹 香

(明治二十六年三月三十一日第三種郵便物認可) 毎月一回二十日發行

明治四十一年四月二十日發行

志士友誼會誌

第貳百五拾壹號

第二百五十一號目次

- 小學教師座右銘 文學博士 井上哲次郎
- 改正小學校令實施に付 枝 德 二
- 篤農懇話會席上に於て 鈴木 隆
- 花吹雪 竹 香
- 教育日誌
- 教授訓練
 - ▲ 圖畫研究(續) 若介庸園生
 - ▲ 教授訓練百話 瀧 廻 家
 - ▲ 簡易遊戲 足助 鈴木胤三郎
 - ▲ 第二師範附屬小學校理科細目
- 漫 錄
 - ▲ 講習餘滴 海西 梶 村 生
 - ▲ 世界各國名義考 石 黒 生
 - ▲ 就學兒童保護組合を論ず 高柳 秀 雄
- 郷土史料
- 有松絞沿革
- 木縣管轄區域沿革
- 文 苑
- 雜 錄
 - ▲ 木縣小學校教員檢定及び免許狀に關する細則 ▲ 明治四十一年度に於ける第一師範附屬小學校 ▲ 南設樂郡通信 ▲ 八名郡通信 ▲ 東加茂郡通信 ▲ 粟栗郡通信 ▲ 其他數件

謹 告

近時風教の頹廢甚しきに感ずる所あり小説『渡邊華山』發行致候處幸にして天覽の榮を賜はりてより廣く江湖有識者の賛同を得既に第六版を發行致し本縣下に入りし部數も約二千二百部に達し候へば各位に於ても或は一瞥の榮を賜はりたること、存候就ては該書にして苟くも青年士女の修養の端に供し得べきものと御認め被下候は、青年會婦人會或は同窓會員諸君に御推獎被下度社會の先導者たる位置に在る諸君に御依頼申上候

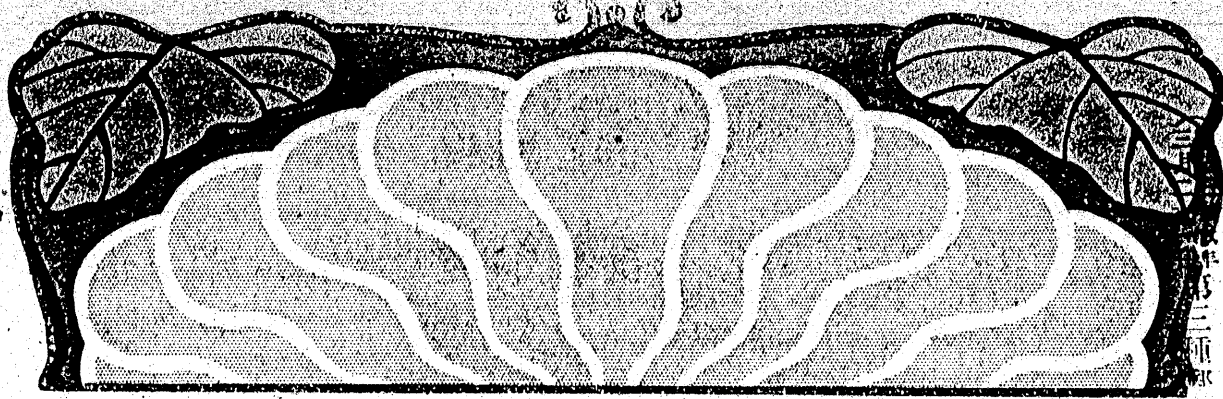
尙部數御取纏め御申込被下候は、相當割引出來得る様書肆にも談示致し置くべく直接當方宛御申込被下候ても宜敷御座候

五月一日

名古屋市中區南吳服町百八十七

西弘文書院

縣下學校長各位御中



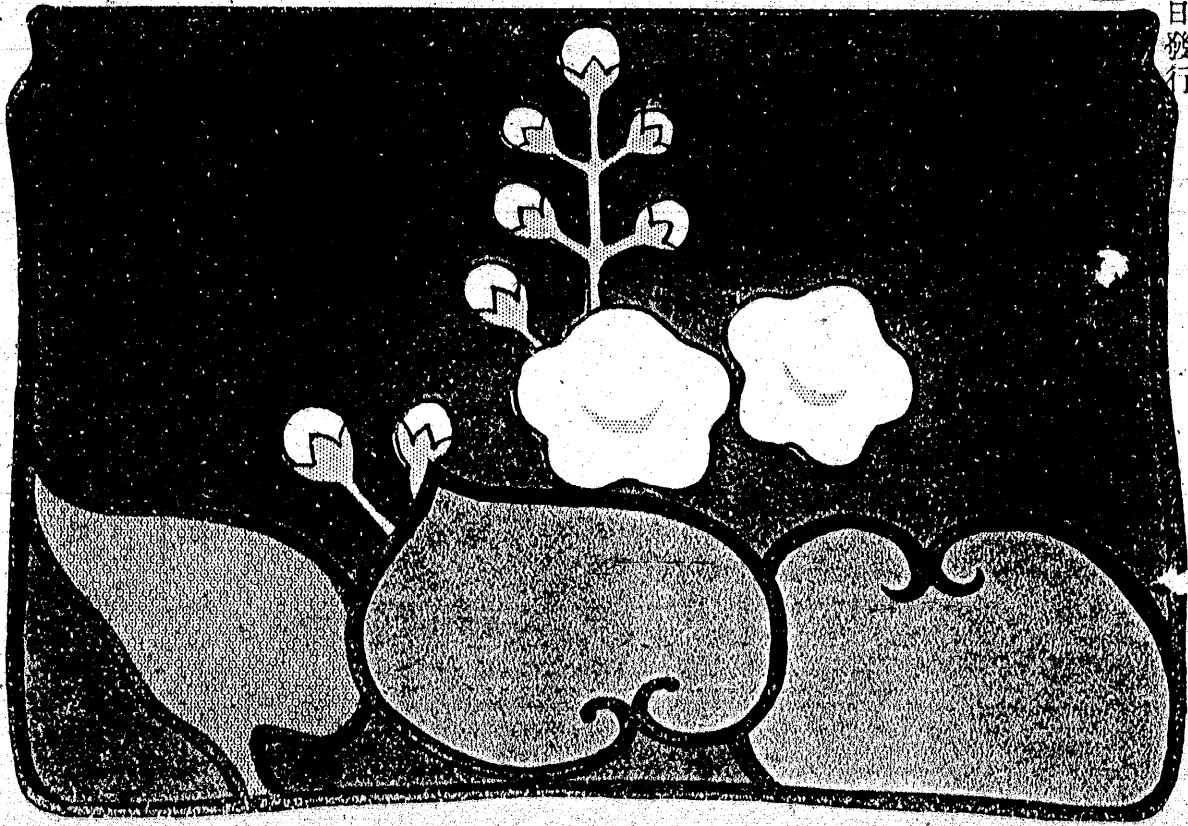
三
種
水
便
物
認
可

(每月一回
廿日發行)

明治四十一年五月二十日發行

讀 雜 詩 和 慶

號 二 十 五 百 二 第



第二百五十二號目次

本會の活動と本誌の改良

枝 徳 二

女教員問題

○ 田部井竹香

● 論説と講話

▲ 理科に就て

一師教諭 山下勝太郎

● 研究の結果

▲ 以前児童感念界の調査一師訓導 石川榮 八

● 教授訓練

▲ 圖書研究(續)

岩倉 庸 園 生

● 漫 録

▲ 第二師範附屬裁縫科細目

▲ 日本臣道教科書を讀む

K 禾 惡 生

▲ 通俗講話會に就て

南 設 川 島 眞 志 知

▲ 教育小筆

横 須 賀 尾 村 桃 陰

▲ 訓練の一二

東 加 茂 松 井 鈴 太 郎

▲ 昨今のわが教育思想

碧 海 竹 長 谷 部 榮 太 郎

▲ 青葉若葉

竹 香

● 郷土史料

○ 竹 香

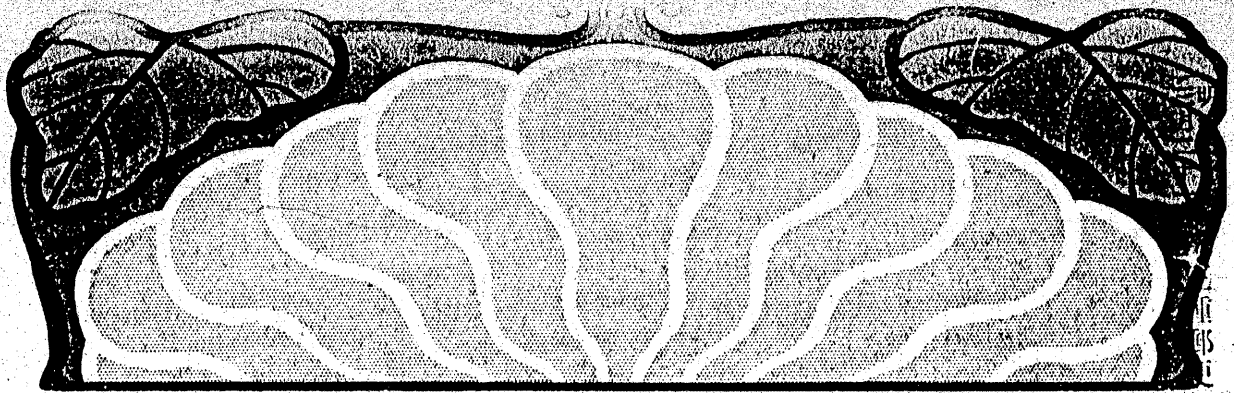
● 有松校の沿革

● 教育日誌

● 雜 報

▲ 學事視察員報告一斑 ▲ 四春日井郡六郷尋常高等小學
 校生徒復習組合 ▲ 寶飯郡赤坂高等小學校進德會 ▲ 孝養
 の聖ある原田伊三郎君の畧歴 ▲ 北設樂郡通信 ▲ 第一師
 範學校附屬記事

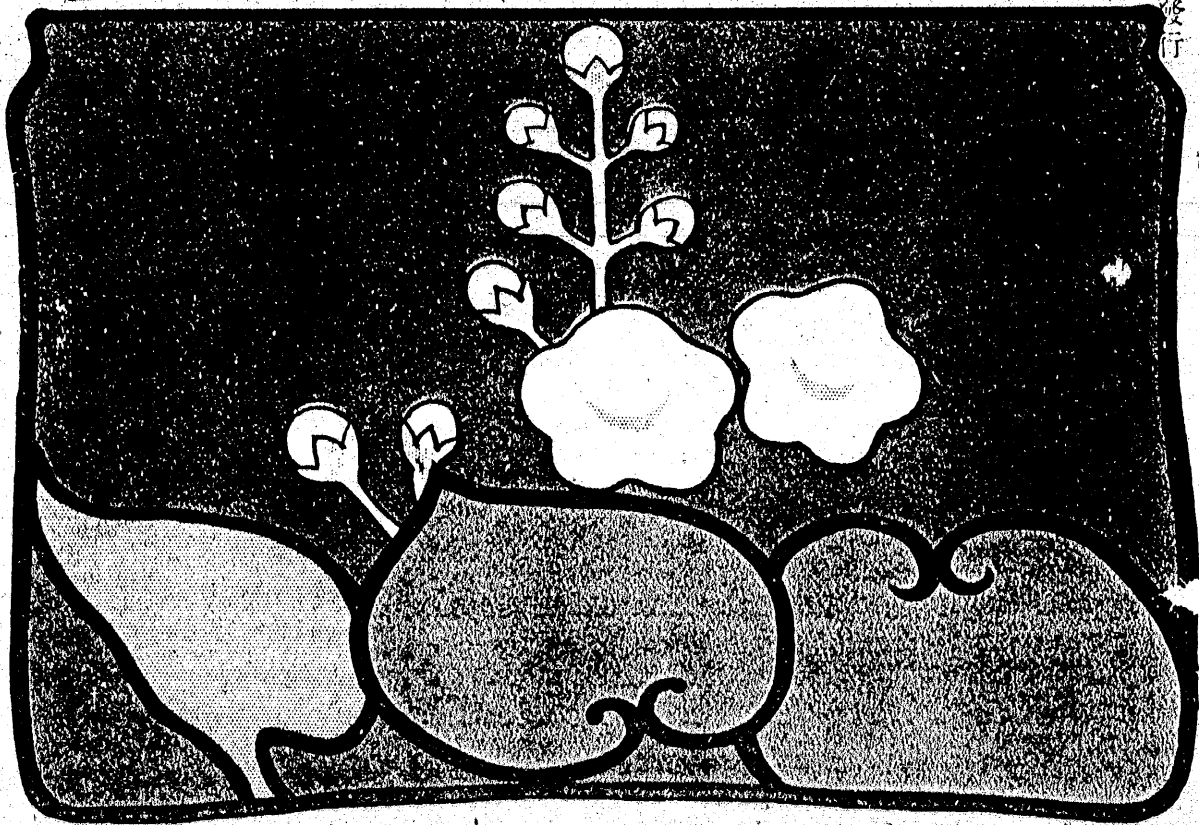
我が國の教育は、明治二十三年下し賜ひたる教育勅語に基き、皇祖皇宗の遺訓を遵守し、祖先の遺風を顯彰し、以て忠良の臣民となるにあり。而て本縣には、尾張に豊臣氏等の英雄を出し、三河に徳川氏以下の人傑を産す。其の血は、今に絶ゆることなく、其遺風は、猶存在せり。されば本縣に於て教育に従事するもの、此の血を養ひ、其の遺風を逐ひ、以て教育勅語の聖旨に副ひ奉らんことを期せざるべからず。故に本誌表紙には皇祖皇宗の仁慈を代表したる曲玉管玉を以て、中央に寫出し、豊臣氏の千瓢を菊花に象り、徳川氏の三葵を桐葉に擬し、以て國体の精華を發揮せんとす。是れ本誌が本縣の教育に於ける理想の一斑なり。



（每月一冊）明治四十一年六月二十一日發行

詩雜藝和慶

號三十五百二第



第二百五十三號目次

本縣各郡市教育會の活動

附愛知縣各郡市教育會明治四十一年度經費豫算表

戰捷と神祇道

鈴木 隆

●教授訓練

- ▲圖畫研究
- ▲教授訓練百話
- ▲國語讀方教授樂

岩倉 庸 園 生
一師訓導 瀧 姬 家
知多 尾村 丈太郎

●漫 録

- ▲日本異道教科書を讀む
- ▲圖畫科に就て
- ▲世界各地名義者
- ▲教師の自省

K 湖 生
足助 寛 湖 生
海西 石 島 生
碧海 長谷 部榮四郎

●郷土史料

- ▲有松絞の沿革

○竹 香

●篤志家菅野武次郎氏の事歴

- 附木縣藍綬章受領者一覽表

●教育日誌

●雜 報

其他號件

本年夏期講習會左ノ通開設ス
志望者ハ七月十五日限り郡市
教育會へ申込マルベシ

愛知教育會

學科 博物科、物理化學科

會期 八月二日ヨリ二十日間

會場 名古屋市(第一中學校内)

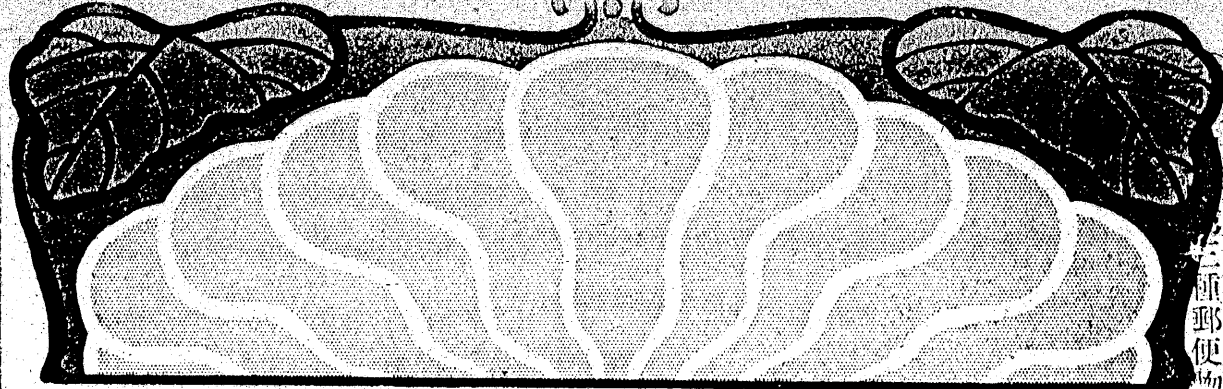
會員 尋常科准教員ニシテ尋常科正
教員ノ試験檢定ニ應セントス
ル者 百名

學科 裁縫科

會期 八月二日ヨリ二週間

會場 名古屋市(縣立高等女學校内)

會員 現ニ小學校裁縫教員ニ従事ス
ル者若クハ高等小學校卒業者
ニシテ將來裁縫教員タラント
スル者 六十名



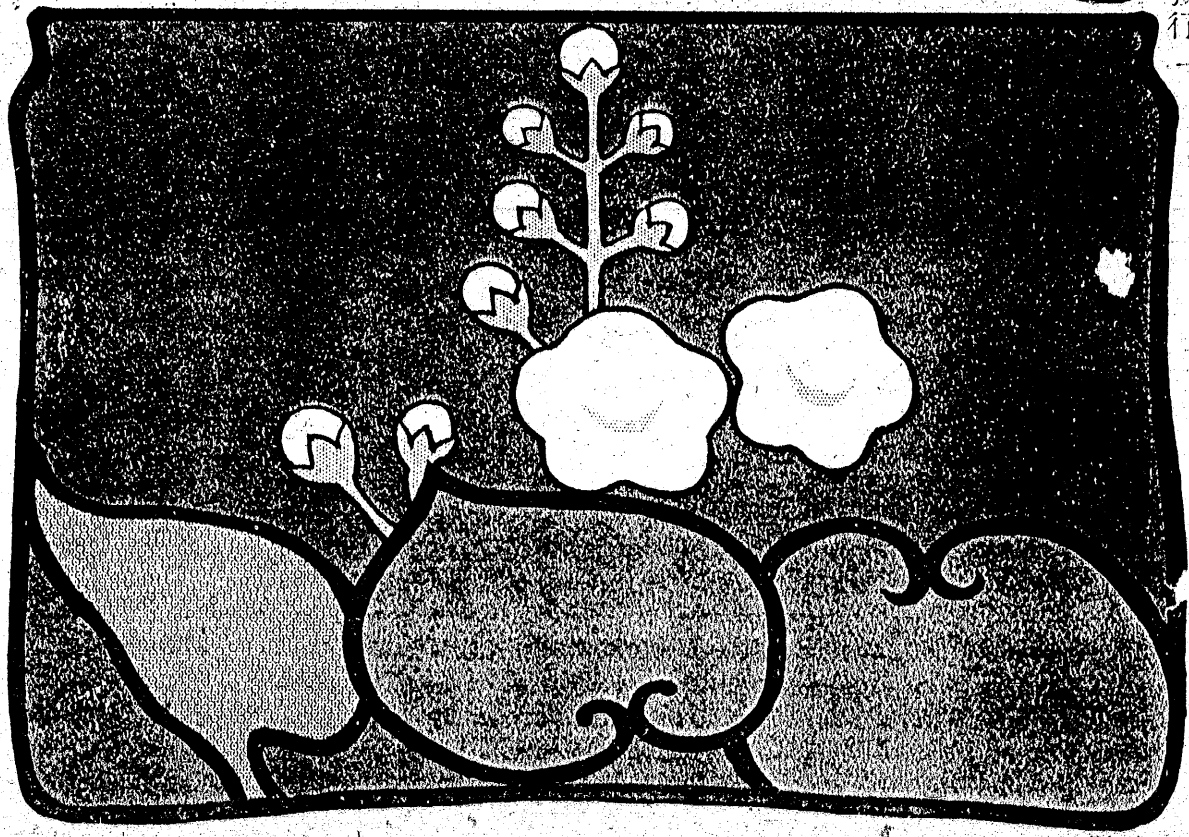
三種郵便物認可

(毎月一回
廿日發行)

明治四十二年七月二十日發行

詩雜亭藝和慶

號四十五百二第



第二百五十四號目次

●教育の成績と教育者の活動

●論議

▲理科の取扱と時弊 一師教諭 山下勝太郎

●教授訓練

▲教授訓練百話 一師訓導 瀧 迺 家

▲兒童個性調査に關する私見

碧海 長谷部榮四郎

▲現今の我が教育思想

足助 松井鈴太郎

▲我が校の校外教授

名古屋 彦坂菊藏

●漫録

▲前芝小學校隨帳簿一覽表に就て

寶飯 柴 田 生

▲講習餘瀝

海西 梶 村 生

▲新らしき地理 (九)

寶飯 宮野 太郎

▲日本の繪畫

西加茂 藤 原 舜

▲教育小説

葉栗 川島 眞志 知

●教育篤志家服部信猷君

●教育日誌

●新判紹介

●雜報

▲第二師範學校視察報告(寶飯 塚本哲俊) ▲南設樂郡
 作手村に於ける學校基本財産設置の一大美舉 ▲碧海郡
 教育者の活動 ▲東加茂郡通信 ▲丹羽郡教育者自製教育
 品展覽會 ▲西春日井郡町村青年會及學科講習會準則 ▲
 笠井村教育會

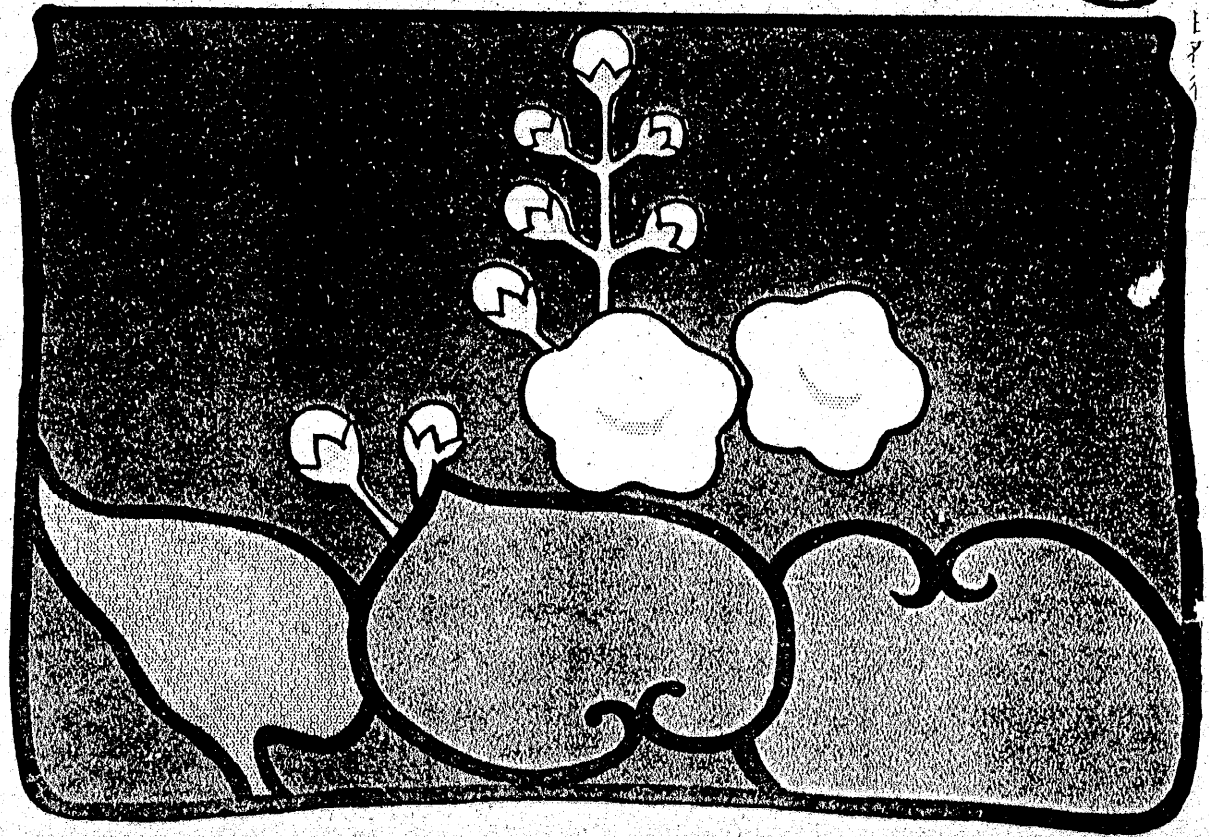
●本會の事業

小學校令の改正は義務年限を延長し教科目を増加せり是れが爲め一層教員の缺乏を増し又其の學力の補充を要求せりされば本會は昨年夏冬兩期に於て理科地理算術の講習會を開催し以て時勢の急務に應せんとしたるが本年も猶其の必要あるを認め更に理科及び裁縫の講習會を開催せり是れ一面には教員の學力を補充すると共に一面には准代教員をして正教員たるの資格を同じくせんめんとを欲せり矣帝暴威を逞する三伏の盛夏なるにも拘らず講師及び講習員はより以上の熱心を以て勉勵努力せらるるは洵に斯道の爲め將た國家の爲め慶賀に禁へざる所なり願くはよく衛生を重んじ身体を損傷することなく風紀を確守して教員たるの体面を失墜する等の事なからんことを

第六年第三種郵便物認可 (前日發行) 明治四十一年八月

清和藝苑雜誌

明治四十一年八月
第二五百五十五號



第二百五十五號目次

●修養と實行

●論叢

▲校訓

▲初等教育者に呈す

知多 尾村文太郎
西加茂 藤原 舜

●漫録

▲教育時事

▲教育小筆

▲各地地名考

竹 川島乳志 香
葉栗 石 照 生
海西

●郷土史料

▲有松校近時の沿革

▲岩瀬文庫を觀る

竹 香
同

●新刊紹介

●新刊寄贈雜誌

●教育日誌

●雜報

▲第二師範學校附屬小學校視察報告▲實飯郡通信▲本縣小學校教員の配置と其の俸給額▲本縣義務教育年限延長實施の情況▲海東郡小學校歩奴拔取及書山驅除成蹟一覽表▲西春日井郡北里村教育會發會式▲名古屋裁縫女學校臨時講演會▲本會主催裁縫科講習會▲本會主催博物物理化學講習會▲本會主催臨時講演會▲坪井博士談話▲師範同窓會

▲本縣夏期講習會一覽表を閱すると其の學科の多くが博物理科圖畫手工唱歌体操裁縫造花若くは片仮名信號法等主に技能的に屬するものである

▲是れ畢竟小學校令が改正せられて之れ等の學科が新に尋常科にまで加設せられた結果に外ならぬ

▲が……之れに就て吾人は過去を顧み現在に照し將又將來に慮りて種々の感想を惹起せざるを得ない

▲第一には是れ等の學科は苟も教師たるものゝ必要缺くべからざるものなるにも拘らず從來何が故に修業せざりしか

▲特に技能に屬するものは頗る多くの熟練を要し決して盜を見て索を緝ひ敵を見て矢を矧く様にては出来得るものに

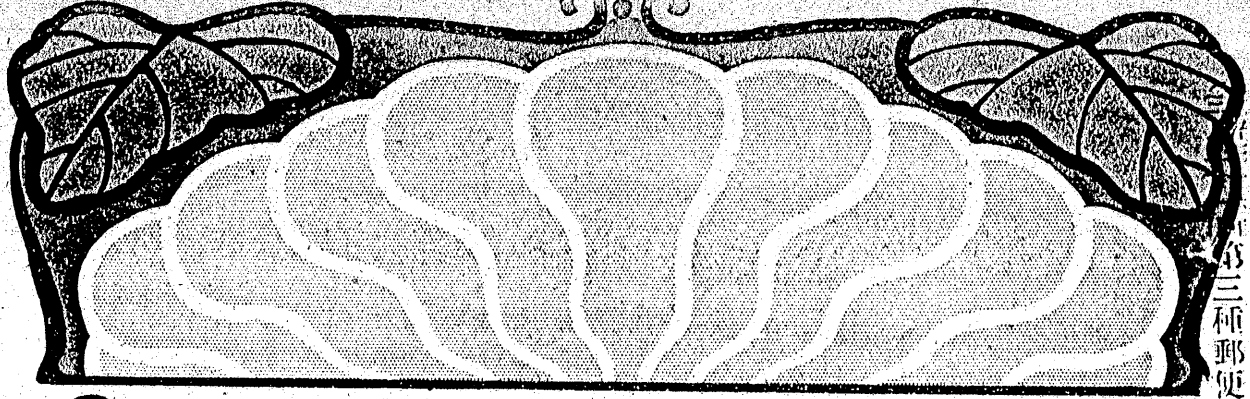
あらざることを思はねばならぬ

▲併し兎も角現に學習の端緒をさへ啓き置けば爾來勉めて怠らずんば早晚熟達に域に進むものだから後れたりとも亦無益にはあらざることである

▲之れと共に大に注意すべきは其の學科が主に物質的に傾きて精神修養の方面を忘却せざるかの疑ひである

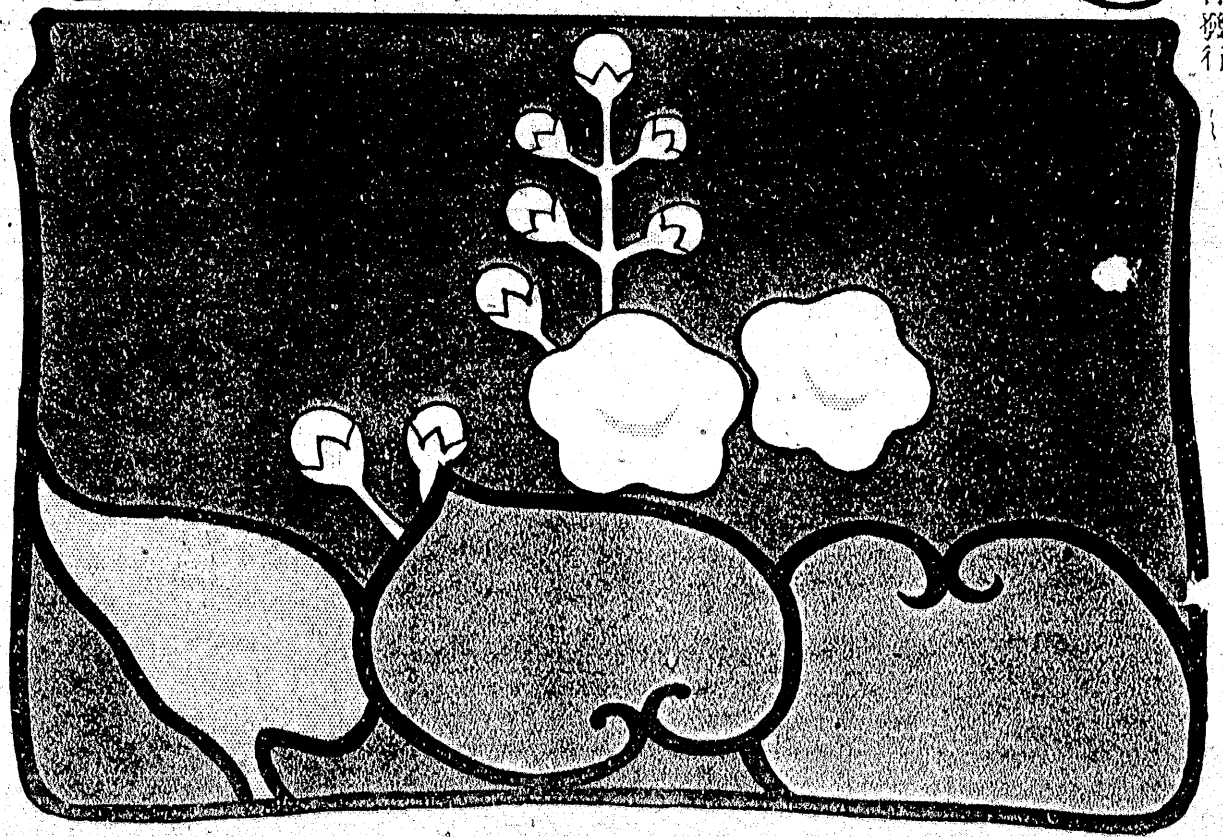
▲されば社會の先導者たるものはかゝる傾向あるときに當りては又他の方面に注意し精神修養に屬する學科の研究をも奨励せざるべからず

第三種郵便物認可
(每月一冊) 明治四十一年九月二十日發行



讀雜藝和慶

號六十五百二第



第二百五十六號目次

●青年會に就て 枝、徳二

●人類學の大意及び人種の優劣 理學博士 坪井正五郎

●論 叢 偉大なる教育者 幡豆郡 高須林作

●訪問録 森本清藏君を訪ふ 〇竹 香

●教授訓練 ▲尋常小學校讀本に表れたる文章連接の法 栗山 謙

●漫 録 ▲小學校の手工科 (第二九五十一號のつゞき) 山本由太郎

▲觀念 (I. C.) の話 藤原 舜

▲新らしき地理 (一〇) 寶飯郡 宮野勇太郎

▲新らしき遊戯法 松 澤 生 香

〇 尼三人傑言行録 〇竹 香

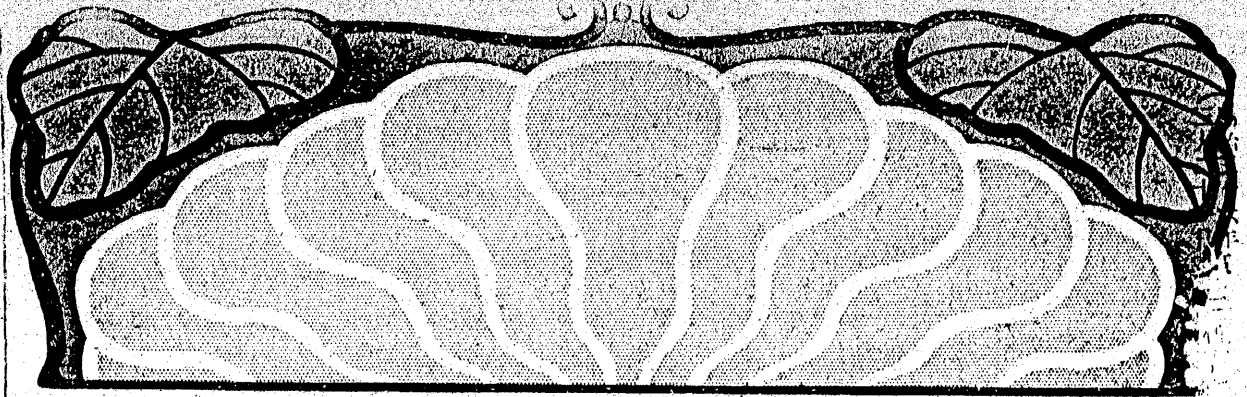
●教育口誌

●新刊寄贈雜誌

●雜 報

▲枝事務官八名北設樂東加茂三郡學事視察談 ▲愛知郡通信 ▲東加藤郡通信 ▲第一師範學校附屬小學校年中行事 ▲文部省中等教育檢定試驗問題

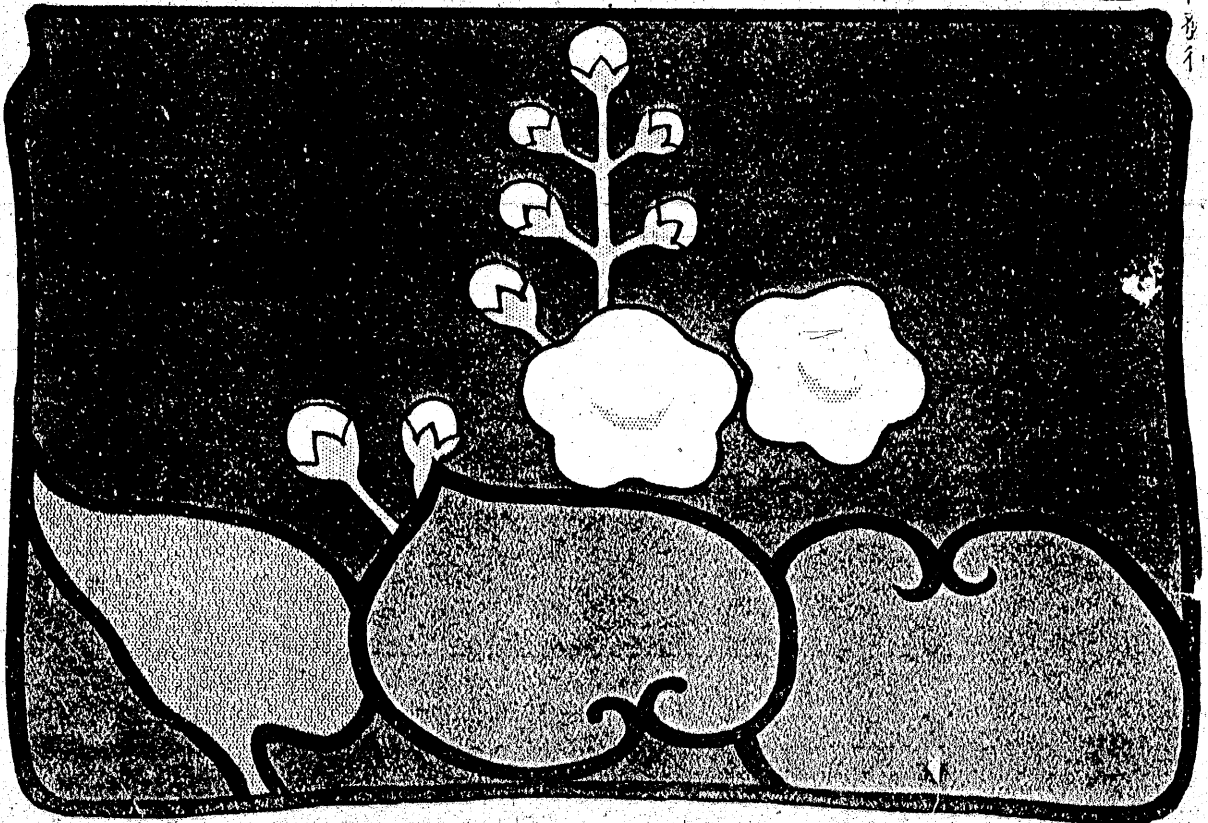
季霜晚秋に入り、天高く氣高く、今や正に運動會學藝會の最好時期となりぬ。本會は、昨年十月、委員數名に囑託して、其の調査報告を誌上に紹介せり。爾來茲に一周年、教育當事者諸君は、定めて彼の調査條項により、或は詳に實驗し、或は大に論究せられたること信ず。果して然らば則ち其の利害得失は、已に判明したるなるべし。本會は其の利のある所は、愈之れを獎勵し、其の弊の存する所は、更に之れを防遏せん。教育當事者諸君。希くは諸君の實驗若くは論究せられたる結果に關し、大に其の利害得失を誌上に紹介せられんことを。是れ本會が率先該件に關し調査報告して以て諸君の參考に供したる所以なり。



清和藝苑雜誌

明治41年10月

第二五百七十七號



第二百五十七號目次

●勅語
●人格修養と石川丈山

●講話

▲人類學の大意及び人種の優劣(前號のつゞき)
理學博士 坪井正五

●余が敬すべき伊藤藤吉君
枝 徳 二

●感すべき節婦板倉あいの女
東母 安野善五 郎

●熱誠忠實なる小學校教員鈴木重平氏
西尾 石井倉三 郎

●青年教育と吉濱青年會
碧海 長谷部榮四 郎

●葉栗郡黒田町玉の井玉光會
葉栗 川島琴 溪

●教授訓練
▲國語讀方教授に關する私見
第二師範訓導 丹羽元三 郎

●設録
▲教授訓練百話
第一師範訓導 石川榮 八

▲人生觀
幡豆 高須 林 作

▲尾三人傑言行錄
竹 竹 香

▲碧海紀行

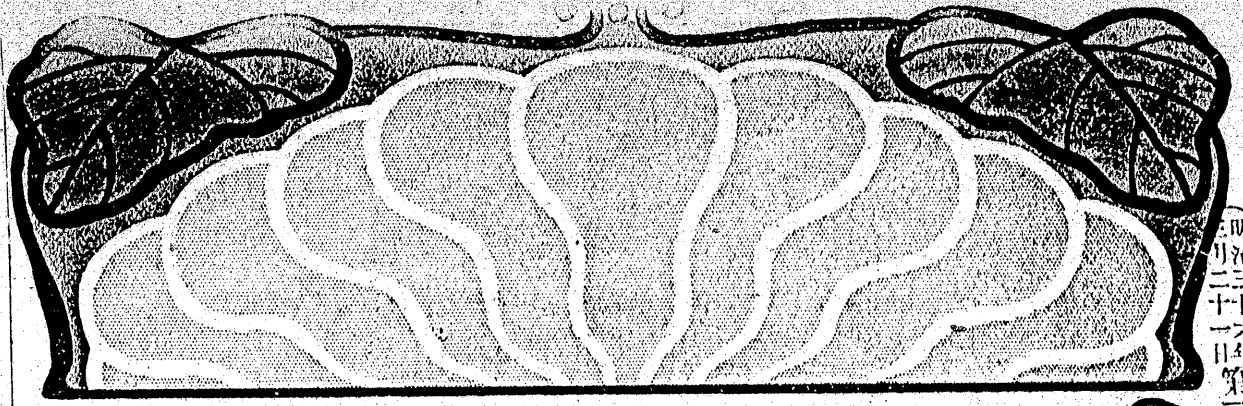
●教育日誌

●新刊寄贈雜誌

●報

▲本縣第二師範學校附屬小學校視察報告(前號のつゞき)
▲校醫の美譽
▲寶飯郡小學校長會
▲寶飯郡學務委員會
▲丹羽郡教育界の現況
▲警察犯處罰令
▲文部省檢定試驗問題(前號のつゞき)
▲叙任辭令

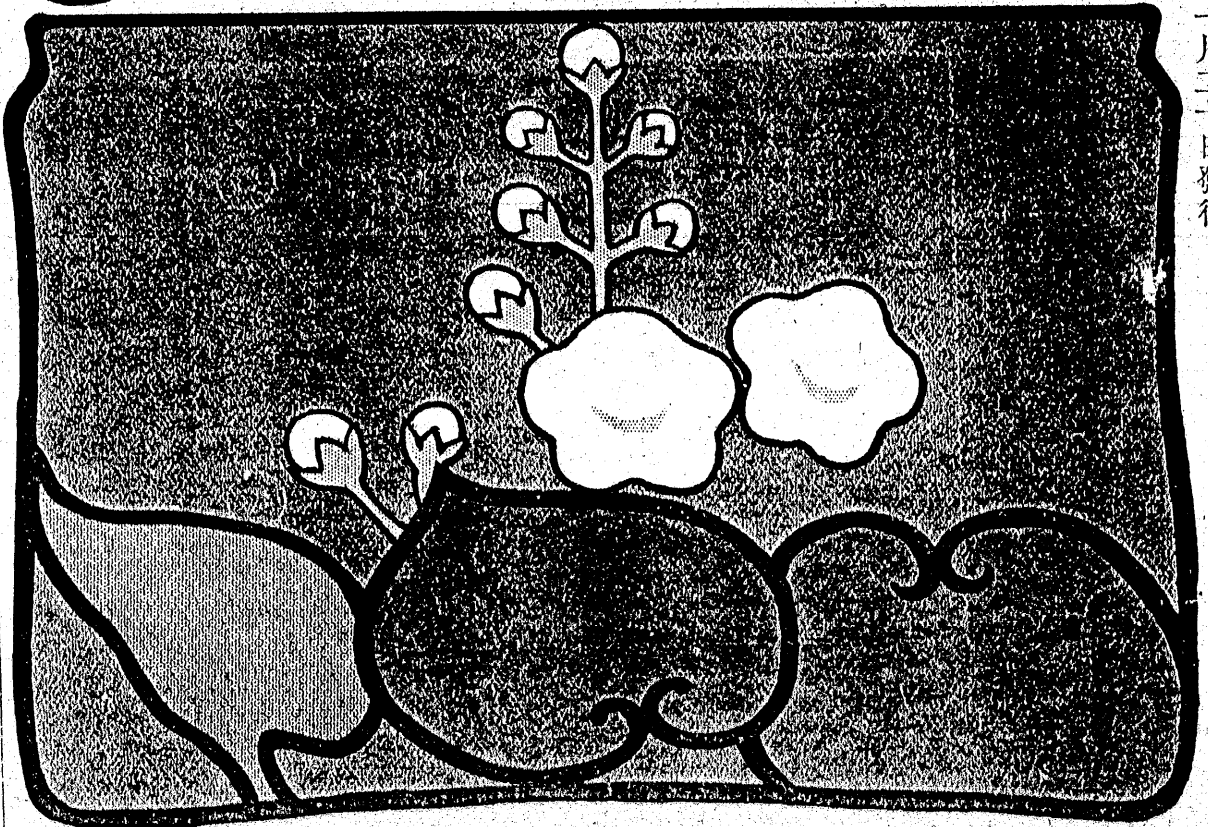
世界人文の發展と我が國運の進歩とは吾人に福利惠澤を蒙らしむること大なりといへども而も之れに慣れ安んじて世俗漸く華奢に移り、民情將に遊惰に流れんとするは、吾人の窮に憂慮せし所なり。此の時に當り、我が親聖文武なる天皇陛下には、特に大詔を煥發し、炳乎として其の嚮ふ所を知らしめ給ふ。誠に恐懼措く所を知らず、吾人任に教育にあるもの、自今一層奮勵努力して、以て聖旨ある所に副ひ奉らんことを期せざるべからず。



（印）三十一日第三種郵便物認可（印）發行
明治四十一年十二月二十日發行

讀雜亭藝和慶

號八十五百二第



第二百五十八號目次

◎自彊不息

◎講話

▲人類學の大意及び人種の優劣(前號のつゞき)
理學博士 坪井正五郎

◎大濱町の摸範人士石川三碧君

碧海 磯村 義通

◎宇都野ぬい子刀自

◎教授訓練

▲綴方教授一端

▲唱歌教授の知的價值

▲唱歌教授につきて(前號のつゞき)

中島 上田 米一
幡豆 高須 林 作
東春 鈴木 壽三 吉

◎漫 録

▲第二回丹羽郡教育者自製教育品展覽會概況

▲第二回丹羽郡教育者自製教育品展覽會を觀る

丹羽 長田 稔
竹 香

▲碧海紀行

◎新刊寄贈雜誌◎新刊書籍紹介

◎教育日誌

◎雜 報

▲面白き小學校基本財産蓄積法 ▲丹羽郡扶桑第三尋常小學校教育施設一班 ▲菅沼直太郎氏幼績表彰式 ▲八名郡八名村大字一畝田勸農積德社設立事情及び事業一班 ▲元寶飯那視學尾池榮次郎君 ▲本縣小學校數並に建築増築費表 ▲文部省檢定試驗問題

◎緊急廣告◎

今回本會は曩に英國より我が文部省へ送附せられたる同國小學校及び其の他諸學校生徒成績品を借り受け來る十二月五六七の三日間午前九時より午後四時迄縣會議事堂(市下借用)に於て展覽會を開く就ては其の路に當らるゝ諸氏は成るべく公私の用務と繰り替へ多數來觀せられんことを希望す
但し別に觀覽券を要せず

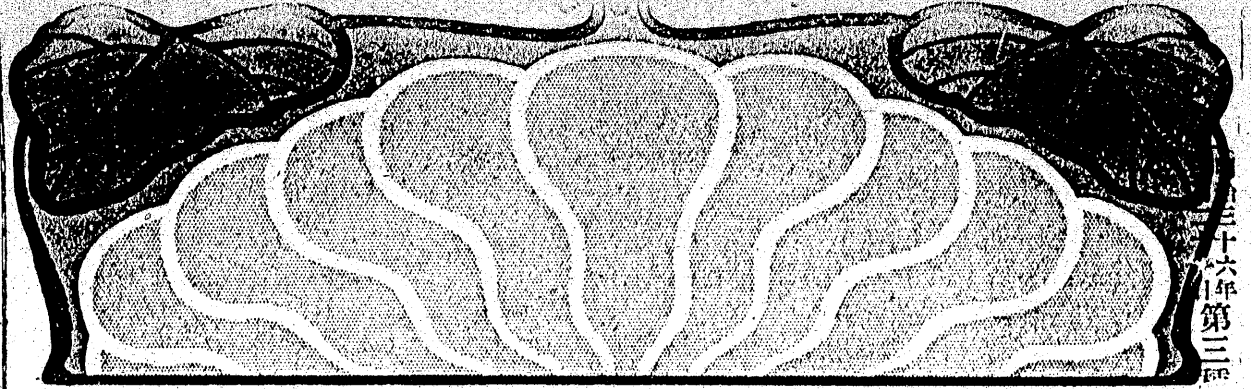
明治四十二年十一月

愛知教育會

三十六年第三

便物

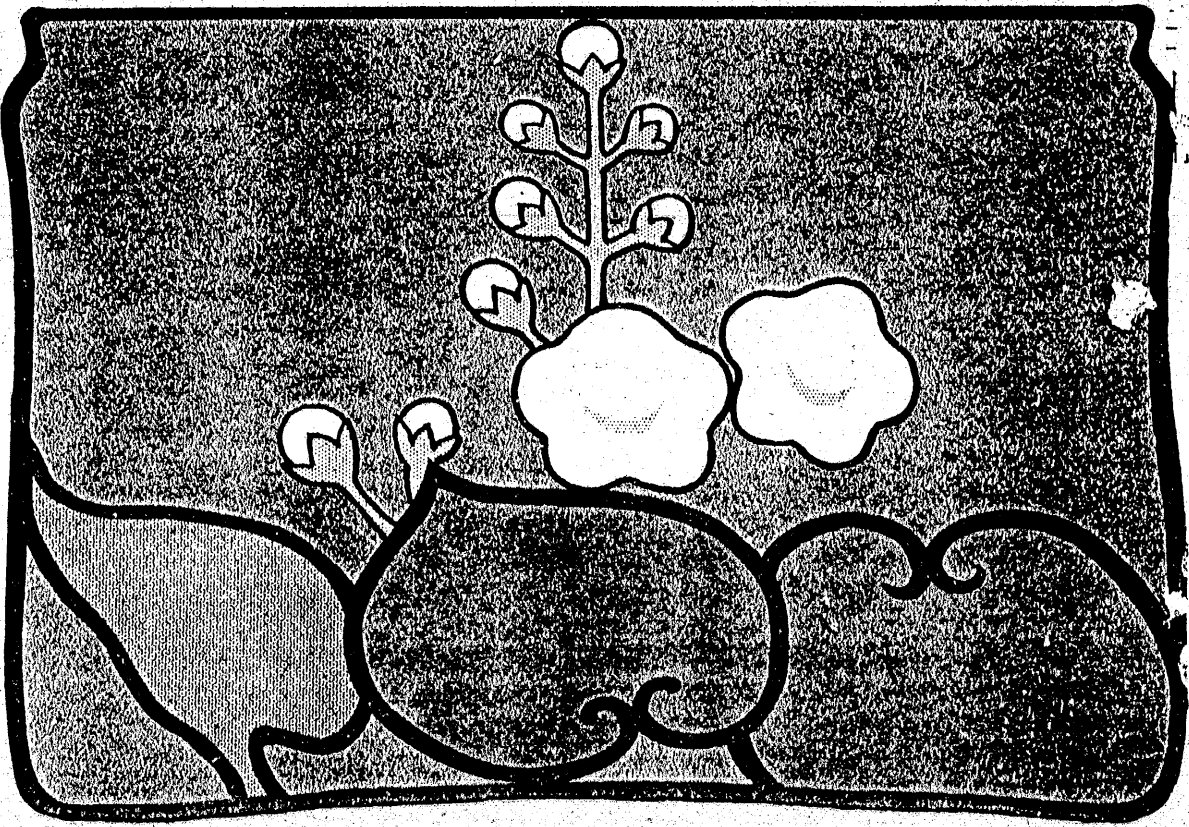
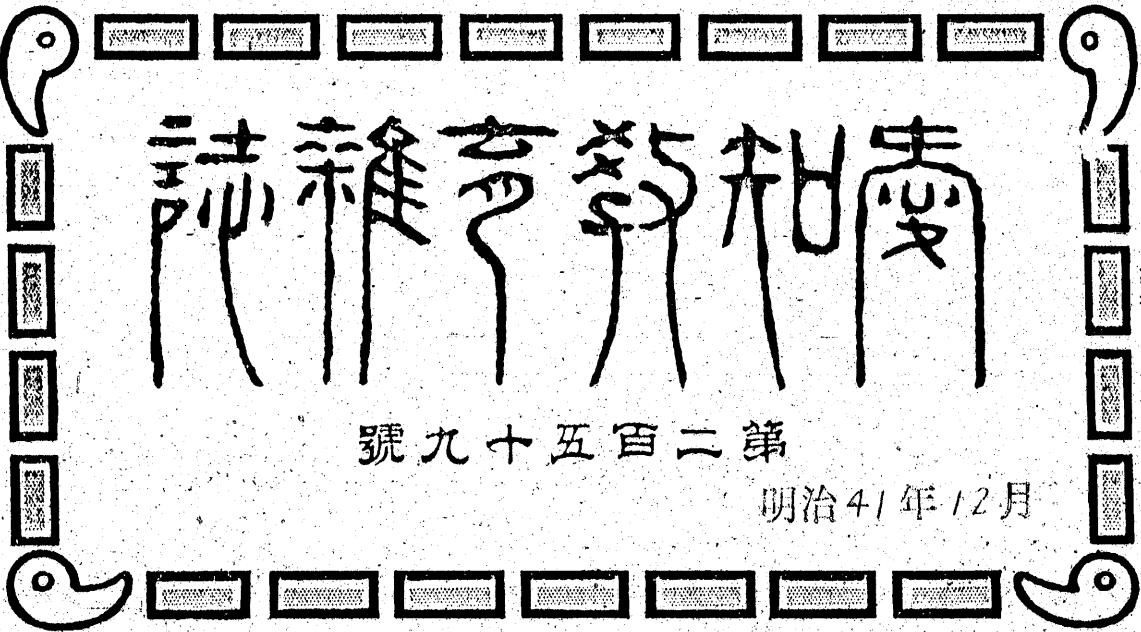
明治四十一年



讀 雜 藝 和 慶

號九十五百二第

明治41年12月



第二百五十九號目次

●普通教育

●明治四十一年を送る

大島義修
の竹香

●教具の製作及び其の整理につき

堀田鑑次郎

●教授訓練

▲片假名信號法を統一する必要なき

一師訓導 中島百次

▲國語讀方教授に關する私見(續き)

二師訓導 丹羽元三郎

●四十三年と我が教育

▲今後開けるべき教育品展覽に就きて余の希望

足助 中根政次郎

●漫 録

▲新しき地理

寶飯 宮野勇太郎
西嶋 藤原 舜

▲漢字同音の誤

●新刊寄贈雜誌 ●新刊書籍紹介

●雜 報

▲小松原文相の巡視及び其の演説 ▲松村普通學務局長の演説 ▲明治四十二年度水縣教育豫算 ▲知多郡教育品展覽會概況 ▲知多郡第二部落秋季總會 ▲餅村の美祭 ▲丹羽郡各部落教育研究會近況 ▲西春日井郡滑洲校の戊申詔書奉讀式 ▲東茂加通信 ▲水會員講習會成績 ▲第一師範福災生徒慰安金寄贈者金額氏名

來る四十三年本縣に於て第十回關西府縣聯合共進會開催せらるゝと機として自然教育品展覽會開催の必要あるべく從て其の出品の種類方法等は豫め大に研究考案し置くべきことなりとす就ては此の種の件に關し高見と有せらるゝ各位は續々本誌へ投稿せられて當事者の參考に供せられんこと切望の至りに堪へど